

## 日インド国際交流シンポジウム 2026 宿利会長 開会挨拶

皆さま、こんにちは、ナマスカー。運輸総合研究所（JTTRI）会長の宿利正史です。

ご多用の中、運輸総合研究所が主催する「日インド国際交流シンポジウム 2026」にご参集いただきました皆さま、オンラインでご視聴の皆さまに、心から御礼申し上げます。

まず、日印関係の要諦を担うご公務にご多忙を極める中、本日ビデオメッセージを頂戴致しました小野啓一 インド駐劔日本国特命全権大使に厚く御礼申し上げます。

続いて、基調講演を賜ります、

- ・ 経済成長研究所理事長であり、第 15 代 インド財政委員会委員長の NK シン様、
- ・ 日本総合研究所 国際戦略研究所 理事長であり、元インド駐劔日本国特命全権大使の平松 賢司様

のお二方に、心から感謝申し上げます。

次に、パネル・ディスカッション 1 では、国際的な人的交流の意義・課題・展望をテーマとして、

- ・ 元インド外務次官の シャム・サラン様、
- ・ 元日本大使のディーパ・ワドワ様、
- ・ 在インド日本国大使館 次席公使の 有吉 孝史様、
- ・ 東北大学特任教授で、前国連事務総長特別代表の水鳥 真美様

の 4 名のパネリストに加え、モデレーターとして、

- ・ アナンタセンターCEO のインドラニ・バグチ様、
- にご登壇頂きます。

さらに、パネル・ディスカッション2では、国際交流を育む観光・文化政策の意義と課題をテーマとして、

- ・ラリット・スリ・ホスピタリティグループ会長のジョツナ・スリ様、
- ・インド観光省次官補のスマン・ピラ様
- ・観光庁長官の 村田茂樹様

の3名のパネリストに加え、モデレーターとして、

・先程もご紹介致しました元インド駐箚日本国特命全権大使の平松 賢司様  
にご登壇頂きます。

モデレーターとパネリストの皆様、ご参集をいただき誠にありがとうございます。

ここで、まず初めに、日本とインドとの人的交流の歴史を振り返ってみたいと思います。

インドは、言うまでもなく、世界最古の文明の一つであるインダス文明が発祥した先進的な地域であります。そのインドで成立した仏教が6世紀に日本に伝来して以来、両国の交流が始まったとされています。

時代を経て第二次世界大戦前、日本を訪れたインドの詩人ラビンドラナート・タゴールのことを、我々日本人は深い敬意をもって迎えました。タゴールがアジア発のノーベル文学賞受賞者であること、インド国家の作詞者であり作曲者でもあることは、日本でも広く知られていることであります。

また、3年半前に公開されたインド映画「RRR」は日本で最もヒットしたインド映画作品となり、インドの映画文化は日本で広く受け入れられています。

さらに、インド料理と日本の和食がお互いにますます身近なものになっているなど、両国の文化交流は様々な分野で着実に広がっています。

さらに、製造業分野では、マルチスズキがインドで40年以上協力関係にあり、また、日印両国の協力によって建設されたデリーメトロはデリー市民の日常の足として役に立っており、日印協力の「輝かしい事例」とされています。

そのような両国は、首脳が相互訪問を含め毎年頻繁に会談を重ねる関係にあり、「特別戦略的グローバルパートナーシップ」関係のもとで、例えば、ムンバイとアーメダバードとの間で日本の新幹線技術を踏まえた高速鉄道事業が進められています。

また、2023年4月から2年間は「日印観光交流年」として、官民挙げて様々な協力的取組が行われてきました。実際に、観光分野の交流では、近年インドから日本を訪れる方の数が増加しており、今後は仏教のつながりを活かした観光交流等、大きな可能性を秘めています。

この点に関連して、昨年7月にシェカーワト観光大臣と会談した際に、今後の日印両国の観光交流を促進するため、合同部会または作業部会を設置し、実務レベルでの協議を継続することで合意いたしました。

さらに、現代的な課題として、日印両国は、「自由で開かれたインド太平洋」の実現に向けて、法の支配、民主主義の重要性等の価値観を共有しているだけでなく、大きな海洋と重要なシーレーンに面しているという地政学的な観点でも、国家安全保障上の共通の課題を有しています。

加えて、ロシアによるウクライナ侵攻や、ホルムズ海峡の事実上の封鎖のような中東地域における地政学的な緊張、さらに自国中心主義の高まりが続く等国際情勢が不安定さを増している中で、長年にわたって経済成長が顕著で国際社会におけるプレゼンスがますます向上しているインドと日本が、共通の価値観と利益を有するパートナーとして協力・連携を深める必要性はますます増大しています。このように、日印両国の広範かつ多層的な人的交流は、両国関係のさらなる発展にとどまらず、相互理解や信頼醸成に繋がり、国際社会の安定に資する重要な要素となります。

そもそも「人と人との交流」は、他国の文化や制度、異なる社会の価値観や取組に触れることによって新たな視点を得ることができるかけがえのない機会となります。また、それにとどまらず、個人の考え方や行動が変化したり、ひいては、自国の文化や歴史を尊重しつつ異なる文化、価値観を柔軟に取り入れることによって、社会全体の前向きな変容にもつながっていくものと確信しています。

本日は、外交や国際機関、文化・観光分野の要職を担うご登壇者によるご講演や議論を通じて、国際的な「人と人との交流」の意義、今後の展望と提案について、会場とオンラインでご参加の皆様と共有できることを期待しております。

また、運輸総合研究所といたしましても、こうした日印間の人的交流や、運輸分野における連携・協働、さらには南アジア地域とのこれらの活動を一層推進していくため、本年秋頃を目途に、新たな海外拠点として、ニューデリーに事務所を開設することとしております。

同事務所を通じて、インド太平洋地域における我が国の極めて重要なパートナーであるインドをはじめ、南アジア地域の官民関係者との人的ネットワークを構築・拡充し、同地域との相互理解と信頼関係の一層の深化に努めてまいります。

最後になりましたが、本日のシンポジウムで今後の広範かつ多層的な国際交流促進について議論を深めることによって、日印間の協力がより一層深まり、両国がますます発展を続けていくことを祈念しまして、私の挨拶といたします。

ダンニャヴァード。本日は誠にありがとうございます。

(以上)